

北海道大学 遠友学舎 炉辺談話

「遠友学舎炉辺談話」は北海道大学創基 125 周年を記念した「遠友学舎」を会場に、北大教員と市民・学生との対話を意図した、誰でも参加できる発見と学びの場として発足しました。講師は北大の管理運営の責任を担うとともに大学を代表する研究者です。それぞれの専門の立場や各研究科等が世界に発信する研究教育機関としてどのような取り組みをしているかなどについてお話をします。

今年度第2回目は、家田 修 スラブ・ユーラシア研究センター教授（1月まで同センター長）に講演していただきます。今冬は雪が多く、天気も荒れがちで外出もたいへんになっていますが、皆様のご来聴を歓迎します。

家田 修 スラブ・ユーラシア研究センター 教授

「福島、チェルノブイリ、アイカを地域とグローバルな視点から考える」

福島、チェルノブイリ、アイカという3つの大規模災害の被災地を、地域とグローバルな視点から考えます。いずれも国境をまたいでグローバルな影響をもたらした環境汚染事故の例です。アイカはハンガリー西部の都市で、大規模な産業廃棄物流出事故が2010年に起きました。日本ではほとんど報道されませんでしたが、当時は国際河川ドナウ川の流域汚染が危惧され、欧州全体が固唾を飲んで顛末を見守りました。三つの被災地を「被災者の救済」でつなぐグローバルな議論の可能性を提起したいと思います。

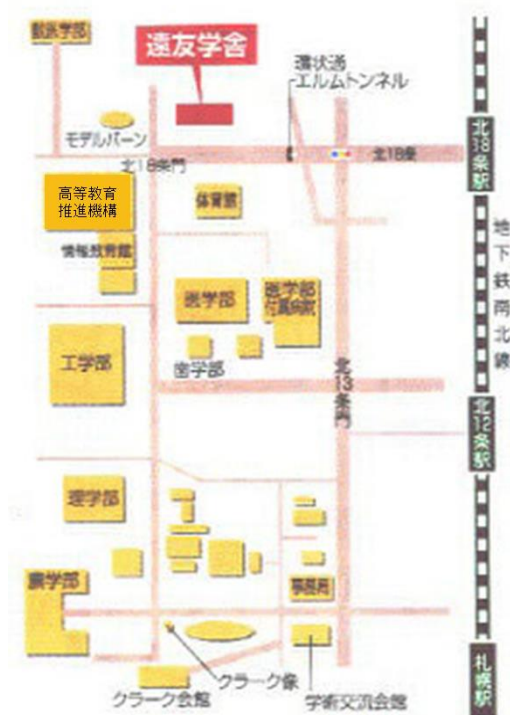
家田 修 (いえだ おさむ) 教授のプロフィール

ハンガリーを中心とした東欧の社会・経済分析、およびその西欧やロシアとの比較史的研究、地方制度や農村経済の変化に関する調査研究を行っている。1990年に本学スラブ研究センター助教授、1995年同教授、この1月までスラブ・ユーラシア研究センター長を務める。この間オックスフォード大学セント・アントニー校客員研究員などを歴任、経済学博士（東京大学）。

日 時：2015 年 3 月 4 日（水）18：30～20：00

会 場：北海道大学遠友学舎 札幌市北区北 18 条西 6 丁目

受講料：無 料（事前の申し込みは不要です。直接会場にお越しください）



遠友学舎の外観



※キャンパスへの車での入構は有料です（300 円）。
公共交通の利用をおすすめします
（地下鉄北 18 条駅から徒歩 5 分ほどです）

《主催・問合せ先》

北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部
地域社会連携グループ

TEL : 011-706-6069

E-mail : syogai@high.hokudai.ac.jp